

合計特殊出生率について

1. 期間合計特殊出生率とコーホート合計特殊出生率

- 合計特殊出生率は「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、次の2つの種類があり、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。
 - A 期間合計特殊出生率
ある期間（1年間）の出生状況に着目したもので、その年における各年齢（15～49歳）の女性の出生率を合計したもの。
女性人口の年齢構成の違いを除いた「その年の合計特殊出生率」であり、年次比較、国際比較、地域比較に用いられている。
 - B コーホート合計特殊出生率
ある世代の出生状況に着目したもので、同一世代生まれ（コーホート）の女性の各年齢（15～49歳）の出生率を過去から積み上げたもの。
「その世代の合計特殊出生率」である。
- 実際に「一人の女性が一生の間に生む子どもの数」はBのコーホート合計特殊出生率であるが、この値はその世代が50歳に到達するまで得られないため、それに相当するものとしてAの期間合計特殊出生率が一般に用いられている。
なお、各年齢別の出生率が世代（コーホート）によらず同じであれば、この二つの「合計特殊出生率」は同じ値になる。
- ただし、晩婚化・晩産化が進行している状況等、各世代の結婚や出産の行動に違いがあり、各年齢の出生率が世代により異なる場合には、別々の世代の年齢別出生率の合計であるAの期間合計特殊出生率は、同一世代の年齢別出生率の合計であるBのコーホート合計特殊出生率の値と異なることに注意が必要である。

2. 令和2年における状況

コーホート合計特殊出生率は同一世代の女性の出生率を過去から積み上げるため、その世代が50歳になるまで得られないが、現段階で得られる到達年齢までのコーホート合計特殊出生率を、5歳階級ごとに1つの世代とみて、5年ごとの出生率を合計し、算出した^{*)}。

例えば1986～1990年生まれ（令和2年における30～34歳の世代）についての34歳までのコーホート合計特殊出生率は1.11であるが、35歳以降も出産するので、実際にこの世代の「一人の女性が一生の間に生む子どもの数」は、1.11に今後の35歳以上での出生率を加えた値となり、晩産化の進行により35歳以上の出生率（令和2年0.3405）が上昇傾向であることから、少なくとも令和2年の期間合計特殊出生率の1.33を上回ると見込まれる。

^{*)} 各年の各年齢別出生率を合計したより精密なコーホート合計特殊出生率は国立社会保障・人口問題研究所で算出されている。

① 期間合計特殊出生率の年次推移(年齢階級別内訳)

年齢	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	17年 (2005)	22年 (2010)	27年 (2015)	令和2年 (2020)
		1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45
15～19歳	0.0180	0.0185	0.0269	0.0253	0.0232	0.0206	0.0123
20～24	0.2357	0.2022	0.1965	0.1823	0.1781	0.1475	0.1148
25～29	0.7031	0.5880	0.4967	0.4228	0.4356	0.4215	0.3744
30～34	0.4663	0.4677	0.4620	0.4285	0.4789	0.5173	0.4877
35～39	0.1079	0.1311	0.1572	0.1761	0.2318	0.2864	0.2777
40～44	0.0113	0.0148	0.0194	0.0242	0.0387	0.0557	0.0610
45～49	0.0003	0.0004	0.0005	0.0008	0.0010	0.0015	0.0018

② 各世代(コーホート)別にみた年齢階級別出生率(ごく粗い計算)

年齢	昭和46～50 年生まれ (1971-1975)	昭和51～55 年生まれ (1976-1980)	昭和56～60 年生まれ (1981-1985)	昭和61～平 成2年生まれ (1986-1990)	平成3～7年 生まれ (1991-1995)	平成8～12 年生まれ (1996-2000)	平成13～17 年生まれ (2001-2005)
	45～49歳 の世代	40～44歳 の世代	35～39歳 の世代	30～34歳 の世代	25～29歳 の世代	20～24歳 の世代	15～19歳 の世代
15～19歳	0.0180	0.0185	0.0269	0.0253	0.0232	0.0206	0.0123
20～24	0.2022	0.1965	0.1823	0.1781	0.1475	0.1148	
25～29	0.4967	0.4228	0.4356	0.4215	0.3744		
30～34	0.4285	0.4789	0.5173	0.4877			
35～39	0.2318	0.2864	0.2777				
40～44	0.0557	0.0610					
45～49	0.0018						
コーホート 合計特殊出生率	1.43	1.46	1.44	1.11	0.55	0.14	0.01

③ コーホート合計特殊出生率(②の積み上げ)(ごく粗い計算)

年齢	昭和46～50 年生まれ (1971-1975)	昭和51～55 年生まれ (1976-1980)	昭和56～60 年生まれ (1981-1985)	昭和61～平 成2年生まれ (1986-1990)	平成3～7年 生まれ (1991-1995)	平成8～12 年生まれ (1996-2000)	平成13～17 年生まれ (2001-2005)
	45～49歳 の世代	40～44歳 の世代	35～39歳 の世代	30～34歳 の世代	25～29歳 の世代	20～24歳 の世代	15～19歳 の世代
15～19歳	0.02	0.02	0.03	0.03	0.02	0.02	0.01
15～24	0.22	0.22	0.21	0.20	0.17	0.14	
15～29	0.72	0.64	0.64	0.62	0.55		
15～34	1.15	1.12	1.16	1.11			
15～39	1.38	1.40	1.44				
15～44	1.43	1.46					
15～49	1.43						

出生数の動向と（期間）合計特殊出生率の動向の関係

- 年間出生数は、「15～49 歳女性人口」（女性人口）、「（期間）合計特殊出生率」（合計特殊出生率）及び「15～49 歳女性人口における年齢構成の違い」（年齢構成の違い）の 3 要素に分解することができる。
- このため、年間出生数の動向は、「合計特殊出生率」だけでなく、「女性人口」と「年齢構成の違い」の動向にも影響を受ける。

$$\text{年間出生数} = \frac{15\sim49\text{歳}}{\text{女性人口}} \times \frac{\text{（期間）合計特殊出生率}}{35^{*1}} \times \frac{15\sim49\text{歳女性人口における}}{\text{年齢構成の違い}^{*2 *3}}$$

令和元年	86.5 万人	=	2,427 万人	×	$\frac{1.36}{35}$	×	0.917
	↓△2.8%		↓△0.9%		↓△2.3%		↓0.4%
令和2年	84.1 万人	=	2,404 万人	×	$\frac{1.33}{35}$	×	0.921

- 令和2年の出生数は前年より 2.8%減少したが、このうち約△0.5%が人口要因（「女性人口」△0.9%と「年齢構成の違い」0.4%）の影響による。
- 「女性人口」の減少は今後も続くとみられるため、「合計特殊出生率」が変わらなければ、出生数が減少していくことになるが、
 - ・出生コーホート別の累積初婚率をみると、30 歳までに結婚する割合は年々低下しているものの、35 歳までに結婚する割合はここ数年横ばいであること（図 1）
 - ・合計特殊出生率の年齢階級別内訳をみると、以前は 20～34 歳だった出産の主力が 25～39 歳に移っていること（図 2）

といった晩婚化や晩産化の動向も踏まえ、今後の「合計特殊出生率」の動向を注視していく必要がある。

※1 （期間）合計特殊出生率は 15 歳から 49 歳までの 35 個の年齢別出生率を加えたものであるため、15～49 歳女性人口に乗じて年間出生数となるように 35 で除している。

※2 「年齢構成の違い」は、「女性人口」×「合計特殊出生率」/35 が「15～49 歳のどの年齢の女性の人数も同じとした場合に当該合計特殊出生率で見込まれる出生数」となることから、「実際の年齢構成がどの年齢の女性の人数も同じという年齢構成とのくらい違うかを示すもの」である。出生率の高い年齢層に女性の人数が相対的に多くなっている場合には、「年齢構成の違い」は概ね 1 より大きくなる。

※3 「令和元年 15～49 歳女性人口」は人口推計、「令和2年 15～49 歳女性人口」は令和2年国勢調査に関する不詳補完結果（参考表）を用いており、令和2年国勢調査より不詳あん分方法が変更になったため、比較をするにあたっては留意する必要がある。

図1 昭和40～平成16年（1965～2004）生まれの女性のコホート別累積初婚率（令和2年（2020年））

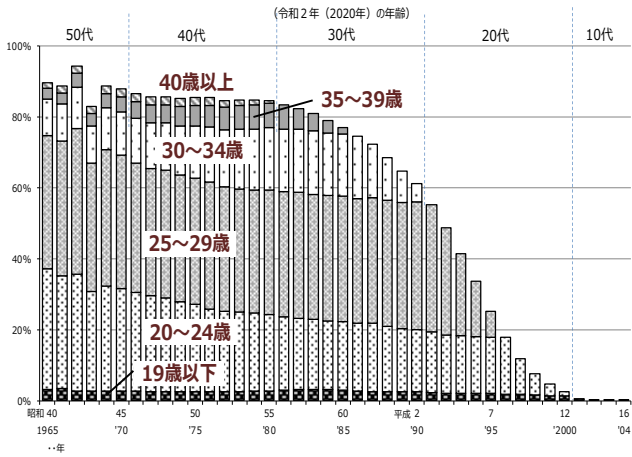
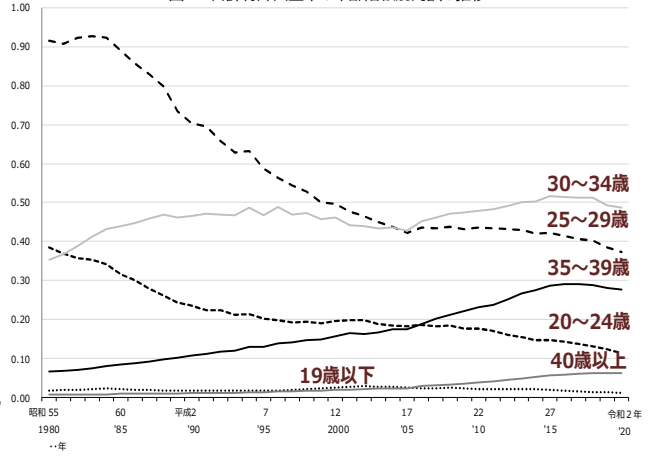


図2 合計特殊出生率の年齢階級別内訳の推移



（期間）合計特殊出生率を用いた出生数の構造分析

年次	実数				対前年増減率（％）			
	出生数(人) ①× $\frac{②}{35}$ ×③	女性人口 (15～49歳) (千人) ①	合計特殊 出生率 ②	年齢構成 の違い ③	出生数	女性人口 (15～49歳)	合計特殊 出生率	年齢構成 の違い
1970	昭和 45年	1 934 239	29 400	2.13	1.079
71	46	2 000 973	29 589	2.16	1.097	3.5	0.6	1.7
72	47	2 038 682	29 700	2.14	1.122	1.9	0.4	2.2
73	48	2 091 983	30 035	2.14	1.139	2.6	1.1	1.6
74	49	2 029 989	30 128	2.05	1.151	△ 3.0	0.3	△ 4.3
75	50	1 901 440	30 251	1.91	1.152	△ 6.3	0.4	△ 6.8
76	51	1 832 617	30 271	1.85	1.144	△ 3.6	0.1	△ 3.0
77	52	1 755 100	30 289	1.80	1.126	△ 4.2	0.1	△ 2.8
78	53	1 708 643	30 319	1.79	1.101	△ 2.6	0.1	△ 0.5
79	54	1 642 580	30 351	1.77	1.071	△ 3.9	0.1	△ 1.2
1980	55	1 576 889	30 438	1.75	1.038	△ 4.0	0.3	△ 1.3
81	56	1 529 455	30 333	1.74	1.013	△ 3.0	△ 0.3	△ 0.3
82	57	1 515 392	30 404	1.77	0.986	△ 0.9	0.2	1.6
83	58	1 508 687	30 463	1.80	0.963	△ 0.4	0.2	1.7
84	59	1 489 780	30 549	1.81	0.942	△ 1.3	0.3	△ 2.1
85	60	1 431 577	30 644	1.76	0.927	△ 3.9	0.3	△ 2.6
86	61	1 382 946	30 726	1.72	0.914	△ 3.4	0.3	△ 2.3
87	62	1 346 658	30 834	1.69	0.904	△ 2.6	0.4	△ 1.9
88	63	1 314 006	30 983	1.66	0.896	△ 2.4	0.5	△ 2.0
89	平成 元年	1 246 802	31 177	1.57	0.890	△ 5.1	0.6	△ 5.1
1990	2	1 221 585	31 154	1.54	0.890	△ 2.0	△ 0.1	△ 1.9
91	3	1 223 245	31 094	1.53	0.897	0.1	△ 0.2	△ 0.5
92	4	1 208 989	30 974	1.50	0.910	△ 1.2	△ 0.4	△ 2.1
93	5	1 188 282	30 865	1.46	0.924	△ 1.7	△ 0.4	△ 2.9
94	6	1 238 328	30 681	1.50	0.942	4.2	△ 0.6	2.9
95	7	1 187 064	30 614	1.42	0.954	△ 4.1	△ 0.2	△ 5.2
96	8	1 206 555	30 651	1.43	0.967	1.6	0.1	0.2
97	9	1 191 665	30 249	1.39	0.993	△ 1.2	△ 1.3	△ 2.6
98	10	1 203 147	29 809	1.38	1.021	1.0	△ 1.5	△ 0.3
99	11	1 177 669	29 330	1.34	1.047	△ 2.1	△ 1.6	△ 3.0
2000	12	1 190 547	28 821	1.36	1.064	1.1	△ 1.7	1.3
01	13	1 170 662	28 513	1.33	1.077	△ 1.7	△ 1.1	△ 1.9
02	14	1 153 855	28 240	1.32	1.085	△ 1.4	△ 1.0	△ 1.1
03	15	1 123 610	27 998	1.29	1.088	△ 2.6	△ 0.9	△ 2.1
04	16	1 110 721	27 773	1.29	1.086	△ 1.1	△ 0.8	△ 0.1
05	17	1 062 530	27 385	1.26	1.078	△ 4.3	△ 1.4	△ 2.2
06	18	1 092 674	27 165	1.32	1.069	2.8	△ 0.8	4.5
07	19	1 089 818	26 982	1.34	1.057	△ 0.3	△ 0.7	1.5
08	20	1 091 156	26 757	1.37	1.044	0.1	△ 0.8	2.2
09	21	1 070 036	26 531	1.37	1.032	△ 1.9	△ 0.8	0.1
2010	22	1 071 305	26 535	1.39	1.019	0.1	0.0	1.4
11	23	1 050 807	26 337	1.39	1.002	△ 1.9	△ 0.7	0.4
12	24	1 037 232	26 135	1.41	0.989	△ 1.3	△ 0.8	0.9
13	25	1 029 817	25 915	1.43	0.975	△ 0.7	△ 0.8	1.5
14	26	1 003 609	25 667	1.42	0.962	△ 2.5	△ 1.0	△ 0.3
15	27	1 005 721	25 452	1.45	0.954	0.2	△ 0.8	2.0
16	28	977 242	25 317	1.44	0.937	△ 2.8	△ 0.5	△ 0.6
17	29	946 146	24 987	1.43	0.928	△ 3.2	△ 1.3	△ 1.0
18	30	918 400	24 639	1.42	0.921	△ 2.9	△ 1.4	△ 0.8
19	令和 元年	865 239	24 266	1.36	0.917	△ 5.8	△ 1.5	△ 3.9
20	2	840 835	24 042	1.33	0.921	△ 2.8	△ 0.9	△ 2.3

注：1）「女性人口（15～49歳）」の転換年は平成9年である。
 2）「合計特殊出生率」の転換年は昭和49年、平成18年である。
 3）「年齢構成の違い」の転換年は昭和51年、平成3年、16年である。